

2 学期終業式に

R5.12.22

暑い夏から、小雪のちらつく厳しい冬へ。長い 2 学期が終わります。

2 学期の初めに皆さんに伝えたのは、たくさんある行事をただの行事にするのではなく自分を育てるチャンスにしてもらいたいということでした。そういう意味で、12 月に入って、うれしいことがありました。

一つ目は 3 年生の観光の授業。松江市の観光振興課の方と観光協会の方に発表を見ていただいていたのですが、見に来ていただいていた方が、「皆さん、去年も発表していた人たちだよ。すごく成長したね。」とってくださったことです。「成長した」とほめていただいたことも有難いことでしたが、何よりも去年の生徒たちの様子を覚えていて、その成長をわかっていただくほどに、よく見ていただいていた。そのことに本当に頭が下がる思いがしました。

「もう二度とこの人たちには会いたくない」と思っていたら、こんな言葉をいただくチャンスはなかったでしょう。「また会いたいな。」「会ってもいいな。」と思ってもらえた人たちだからそんな風に言ってもらえたのだと思います。文字通り有難いことだと思いました。

二つ目は昨日、3 年生が総合的な探究の時間に、クラス単位で地域に出かけてボランティア活動を行った姿です。どのクラスも生き生きと、自分たち自身も楽しんで、子どもたちや施設の皆さんに喜んでいただいていた。「こんな素敵な女子高生たちにはまた来てもらいたい」そんな言葉をいただいた姿でした。

「また会いたい」「また来てもらいたい」そう思ってもらえることは決して簡

単なことではありません。そう思ってもらえるには努力がいるからです。そして、その努力は自分にとっても人にとっても大切な価値のあることです。

一方で、この2学期、気になる姿を見かけることがありました。授業中に突っ伏して寝ていても平気、机の周りにもものがあふれていても平気、注意されてもそれはスルー。一番力がつくはずの2学期にそんな姿を見聞きすることは残念でならないことでした。それは、自分を自分で台無しにしている姿だからです。そしてまた、それは、他の人の学ぼう、伸びようとする気持ちを削いでしまう姿です。さらに、伸ばしてやろうと思う人の心も折ってしまう姿です。

学校は、自分のおうちではありません。まして、自分の部屋ではありません。家でできて学校ではできないこと、してはいけないことは当然あります。他人と共に生活する場である以上、お互いに気を遣うことは必要です。

誰かを攻撃するような言葉ではなく、だれかを支えるような言葉になるよう考えて言葉にする。言っていることと、していること、言うべきでないこと、してはいけないことをわきまえる。してもらって当然ではなく、感謝の気持ちを態度であらわす。誰もが気持ちよく過ごせるように、掃除をし、環境を整える。そういったことは、すべて小さいころから学んできているはずのことです。そして、それは、お互いがお互いを大切にすることの基本中の基本です。言いたい放題、やりたい放題の言動は他人を傷つけるだけでなく、自分自身を損なっていることに気づいてください。

皆さん一人一人は人の思いがわかったり、やさしく人に接することができた

り、発言力があつたり、それぞれにたくさんの良いところがある人たちです。けれど、大なり小なり集団になったときになぜかその良いところが生かされなくなってしまうたり、埋もれてしまったりするときがある。それは本当にもったいないことです。

「また会いたい」と思われる人としての努力を自分はしてきたか。他の人もそう思われるような力になれたか。2学期の終わりにそういう振り返りをしてください。そして、自分のクラスは、自分の仲間は、「また会いたい」と思われる努力をしてきた集団であったかということについても考えてみてください。

明日から冬休みに入ります。この冬休み、ぜひ本を読んでください。1冊でも、2冊でも、多ければ多いほどいい。自分の見ている狭い狭い世界から自分を抜け出させてくれる、本にはそういう力があるからです。

3年生は卒業したら家を出る人もいると思います。振り返ったときに、この冬休みが、家族と過ごす最後の冬休みだったという人もいると思います。新しい年を迎える準備を手伝ったりしながら、家族と過ごす時間を大切にする休みにしてください。

1, 2年生の冬休みは、学年のまとめの学期へ向けての大事な時間です。3学期が自分をしっかり育てる学期になるよう自分を整える時間にしてください。

3学期にどんな皆さんに会えるか、楽しみにしています。

校長 中村 訓子